

# 児童における体力と運動有能感との関係

武 田 正 司

## 目 的

現行の学習指導要領における体育は、生涯スポーツすなわちスポーツライフを志向していることは周知のとおりである。小学校学習指導要領の体育科改訂の方針においても、教育課程審議会の答申(1998年7月)の趣旨を踏まえて「生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践していくことの基礎を培う観点を重視し、児童の発達の特性を考慮した運動に仲間と豊かにかかわりながら取り組むことによって、各種の運動に親しみ運動が好きになるようにすること。」<sup>1)</sup>が強調された。児童期は「巧みさの最適学習期」<sup>2)</sup>であるとともに、「運動の感受期」<sup>3)</sup>であって運動・スポーツに対する情調も形成される時期でもあろう。別言すればスポーツへの社会化過程における最も重要なステージがこの児童期とみられるのである<sup>4)5)</sup>。一方、今日の小学校体育では「運動に親しむ資質や能力を育成するとともに基礎的な体力を高めることを重視」<sup>6)</sup>しており、体力の向上もまた重点目標のひとつになっているのである。

生涯にわたる豊かなスポーツライフを創造するためには運動・スポーツ文化の機能的特性を享受できる、体力(運動能力)、スキル、知識、運動・スポーツ参加に伴う情調などが児童期に適切に体制化され定着されなければならない。このような命題に立つとき、岡澤祥訓らによる一連の研究に注目しなければならないであろう。岡澤祥訓らは「生涯体育・スポーツの実践者の育成のためには運動有能感を高めることが必要であるという仮説」<sup>7)</sup>に基づき、運動有能感測定尺度の作成を試みている<sup>8)9)</sup>。そして、運動有能感は自己の運動能力・運動技能に対する肯定的認知である身体的有能さの認知、自己の努力や練習によって運動をどの程度コントロール

できるかの認知である統制感、および運動場面で教師や仲間から受け入れられているという認知である受容感から構成されていることを明らかにしている<sup>10)</sup>。また、運動の楽しさや運動の好き嫌いとは運動有能感との間には高い相関が認められることも報告している<sup>11)~13)</sup>。

本研究は児童における体力と運動有能感との関係を明らかにするために企図したものである。それは児童の体力の向上が運動有能感を高め、その高い運動有能感が適切に体力を向上させるといった、この関係性そのものが豊かなスポーツライフ創造のための「資質や能力の育成」の内実である、という仮説に基づいている。岡澤祥訓が示す先の研究仮説を指示する場合においても、また、児童期の運動・スポーツへの志向性の様相を検証するためにも、児童における新体力テストの結果と運動有能感テストの結果をクロス分析してみるという研究視角は有効と考える。

児童の体力(運動能力)の現状については、小林寛道による最近の指摘のとおり「『走る』『跳ぶ』『投げる』という基礎運動能力と握力の各分野で、低下傾向が続いて」<sup>14)</sup>おり、「体力と、物事への意欲や集中力との相関関係を調べた大規模調査では、運動能力が高い方が、精神的な活動力も高いという結果が出ている。」<sup>15)</sup>のである。前記の小学校体育の重点目標を振り返るまでもなく、児童の「基礎的な体力を高める」ための有効かつ具体的方策が講じられなければならない。本研究はそのための基礎的な情報を提供するものでもある。

## 方 法

### 1. 調査対象

岩手県盛岡市立K小学校の児童534名であ

表 1. サンプルの構成

(実数)

| 項目 | 低学年 | 中学年 | 高学年 | 計   |
|----|-----|-----|-----|-----|
| 男  | 81  | 85  | 106 | 272 |
| 女  | 100 | 84  | 78  | 262 |
| 計  | 181 | 169 | 184 | 534 |

る (表 1 参照)<sup>※1)</sup>。

## 2. 調査時期

「新体力テスト」の測定は 2004 年 5 月, 「運動有能感テスト」の調査は 2004 年 9 月に実施された。

## 3. 調査内容

「新体力テスト」の測定項目は「50 m 走」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横とび」「20 m シャトルラン (往復持久走)」の 8 項目である。「運動有能感テスト」の調査項目は「身体的有能さの認知」「統制感」「受容感」の 3 つにカテゴライズされており, それぞれのカテゴリーは低学年 3 項目 (合計 9 項目), 中・高学年 4 項目 (合計 12 項目) で構成されている (別表 1 および別表 2 参照)。

## 4. データ処理

素データは次の手順によって処理された。

① 「低学年 (第 1・2 学年)」「中学年 (第 3・4 学年)」「高学年 (第 5・6 学年)」別に 3 群別した。

② 「新体力テスト」では「総合評価基準表」<sup>16)</sup>により「A・B 段階」と「C・D・E 段階」の 2 群に分け, 前者を「体力上位群」, 後者を「体力下位群」とした。

③ 「運動有能感テスト」では「身体的有能さの認知」「統制感」「受容感」の 3 つのカテゴリーの集合を「運動有能感」として, 低学年の 38 点以上の得点群と中・高学年の 44 点以上の得点群を「運動有能感上位群」とし, それ未満の得点群を「運動有能感下位群」とした。

④ 「身体的有能さの認知」のカテゴリーでは低学年と中・高学年のいずれも 13 点以上の得点群を「身体的有能さの認知上位群」とし, それ

未満の得点群を「身体的有能さの認知下位群」とした。

⑤ 「統制感」のカテゴリーでは低学年の 14 点以上の得点群と中・高学年の 16 点以上の得点群を「統制感上位群」とし, それ未満の得点群を「統制感下位群」とした。

⑥ 「受容感」のカテゴリーでは低学年の 12 点以上の得点群と中・高学年の 15 点以上の得点群を「受容感上位群」とし, それ未満の得点群を「受容感下位群」とした。

⑦ ③—⑥ における「上位群」と「下位群」の群別に用いた得点基準は, 「低学年の群」と「中・高学年の群」のそれぞれの群における得点の平均値を根拠とした<sup>※2)</sup>。

⑧ ①—⑥ の群に分別して「体力」と「運動有能感」「身体的有能さの認知」「統制感」「受容感」のクロス集計を行った。

## 結果と考察

本稿の目的である体力と運動有能感との関係を検討する前に, 「新体力テスト」「運動有能感テスト」, および「運動有能感」を構成する下位カテゴリーである「身体的有能さの認知」「統制感」「受容感」のそれぞれの結果をみておく必要があると思われる。まず, 以下に今回の調査の単純集計の結果を示すことにする。

### 1. 「新体力テスト」の結果

表 2 は「50 m 走」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横とび」「20 m シャトルラン (往復持久走)」のそれぞれの測定値を総合して A—E の 5 段階で評価したものであって, A・B 段階を「体力上位群」, C・D・E 段階を「体力下位群」として, 低・中・高学年別に示したものである。

表 2 から明らかなとおり, 各学年とも「体力

表 2. 「新体力テスト」の結果  
(実数と%)

| 体力  | 低学年      | 中学年     | 高学年     |
|-----|----------|---------|---------|
| 上位群 | 79 43.6  | 82 48.5 | 92 50.0 |
| 下位群 | 102 56.4 | 87 51.5 | 92 50.0 |

上位群」と「体力下位群」の比率はおおよそ同数であることがわかる<sup>註3)</sup>。

## 2. 「運動有能感テスト」の結果

表3は「運動有能感テスト」のすべての項目（低学年は9項目、中・高学年は12項目）について、低・中・高学年別、上・下位群別に示したものである。

表3にみるとおり、低学年と中学年では「運動有能感上位群」に属するものが多いが、高学年になると一転して「運動有能感下位群」に属するものが多くなることがわかる。この傾向は岡澤祥訓による調査結果<sup>17)</sup>とも符合するものであるため、こうした高学年での運動有能感の低下傾向は一般的傾向とみてよいであろう。

## 3. 「運動有能感」の下位カテゴリーの結果

表4は「運動有能感」の下位カテゴリーである「身体的有能さの認知」「統制感」「受容感」のそれぞれを低・中・高学年別、上・下位群別に示したものである。この試みは前記の運動有能感が高学年で低下するというその内実を、この3つの下位カテゴリーによってより詳細に理解しようとするものである。

表4から明らかなとおり、「身体的有能さの認知」「統制感」「受容感」のいずれのカテゴリーにおいても、高学年では中学年に比して「下位群」に属するものが有意に多いことが理解できる。

表3. 「運動有能感テスト」の結果  
(実数と%)

| 運動有能感 | 低学年      | 中学年      | 高学年      |
|-------|----------|----------|----------|
| 上位群   | 113 62.4 | 107 63.3 | 73 39.7  |
| 下位群   | 68 37.6  | 62 36.7  | 111 60.3 |

〈 $\chi^2$ テスト〉 中学年×高学年:  $\chi^2=19.699$   $p<0.001$

この事実は高学年における運動有能感の低下にはそれら3つのすべてのカテゴリーが関与していることを示唆するものである。とくに統制感の低下、身体的有能さの認知の低下、受容感の低下の順で大きく寄与していることが $\chi^2$ テストの結果から読み取れる。「統制感」とは努力して練習すれば運動は向上するということに対する自己評価を意味するものであり、「身体的有能さの認知」とは実際の運動能力の自己評価であり、「受容感」とは運動場面における先生や友人との関係性の自己評価を意味するものである(別表2参照)。したがって、小学校の高学年の段階におけるそれらの自己評価の低下が、実際の運動・スポーツ行動において消極的な態度を示す児童を多く生み出しているということを推測させるものでもあろう。なかでも統制感が大きく後退する事実をわれわれは直視しなければならない。

## 4. 「体力」と「運動有能感」の関係

表5は「新体力テスト」と「運動有能感テスト」

表4. 「運動有能感」の下位カテゴリーの結果  
(実数と%)

| 下位カテゴリー   |     | 低学年      | 中学年      | 高学年      |
|-----------|-----|----------|----------|----------|
| 身体的有能さの認知 | 上位群 | 123 68.0 | 106 62.7 | 72 39.1  |
|           | 下位群 | 58 32.0  | 63 37.3  | 112 60.9 |
| 統制感       | 上位群 | 120 66.3 | 132 78.1 | 95 51.6  |
|           | 下位群 | 61 33.7  | 37 21.9  | 89 48.4  |
| 受容感       | 上位群 | 105 58.0 | 117 69.2 | 107 58.2 |
|           | 下位群 | 76 42.0  | 52 30.8  | 77 41.8  |

〈 $\chi^2$ テスト: 中学年×高学年〉

「身体的有能さの認知」:  $\chi^2=19.612$   $p<0.001$

「統制感」:  $\chi^2=26.902$   $p<0.001$

「受容感」:  $\chi^2=4.662$   $p<0.05$

表5. 「体力」と「運動有能感」の関係  
(実数と%)

| 体力<br>運動有能感  | 低学年                     |         | 中学年                       |         | 高学年                       |         |
|--------------|-------------------------|---------|---------------------------|---------|---------------------------|---------|
|              | 上位群                     | 下位群     | 上位群                       | 下位群     | 上位群                       | 下位群     |
| 上位群          | 58 73.4                 | 55 53.9 | 68 82.9                   | 39 44.8 | 54 58.7                   | 19 20.7 |
| 下位群          | 21 26.6                 | 47 46.1 | 14 17.1                   | 48 55.2 | 38 41.3                   | 73 79.3 |
| $\chi^2$ テスト | $\chi^2=7.215$ $p<0.01$ |         | $\chi^2=26.380$ $p<0.001$ |         | $\chi^2=27.817$ $p<0.001$ |         |

ト」の結果をクロス集計したものであって、低・中・高学年別および上・下位群別に示したものである。

表5から明らかなように、いずれの学年においても「体力上位群」に属するものは「運動有能感上位群」に属するものが有意に多いことがわかる。この事実は児童期の実際の体力水準の高低が運動有能感の形成に大きく関与していることを示すものであり、とくにこのことが低学年ですでに認められる点に注目しなければならない。また、前記の運動有能感が高学年から低下傾向を示したこと（表3参照）とこの結果を照合してみると、低学年からの体力の向上をめざした体育指導のさらなる検討の必要性が示唆されるのである。

#### 5. 「体力」と「身体的有能さの認知」との関係

表6は「新体力テスト」と「身体的有能さの認知」のカテゴリーの結果をクロス集計したものであって、低・中・高学年別および上・下位群別に示したものである。

表6にみるとおり、低・中・高のいずれの学年においても「体力上位群」に属するものは「身体的有能さの認知上位群」に、また「体力下位群」に属するものは「身体的有能さの認知下位群」に属するものが有意に多いことが理解でき

る。このことは実際の体力の水準と身体的有能さの認知の水準には密接な関係があることを明白に示すものであり、また、体力(運動能力)の自己評価が適切に行われていることを端的に示すものである。とくに低学年ですでにこうした傾向がみられる点は見逃せない。

#### 6. 「体力」と「統制感」との関係

表7は「新体力テスト」と「統制感」のカテゴリーの結果をクロス集計したものであり、低・中・高学年別および上・下位群別に示したものである。

表7から明らかなように、中学年になると「体力上位群」に属するものは「統制感上位群」に属するものが多く認められ、高学年になるとその傾向はますます明白になることが理解できる。このことは中学年以降学年が上がるにつれて、実際の体力水準の高低が統制感の形成に大きく影響を及ぼしていることを示唆するものであり、この統制感が高学年で有意に低下することと照合すれば(表4参照)、実際の体力水準の向上のもつ意味はますます重みを増してくるのである。と同時に、本調査研究でもっとも注目しなければならないことが低学年に認められる。すなわち、低学年の段階では体力水準の高低が、がんばって練習すれば運動は向上するといった統制感にまだ影響を及ぼすには至ってい

表6. 「体力」と「運動有能感」との関係 (実数と%)

| 体力<br>身体的<br>有能さの認知 | 低学年                           |         | 中学年                           |         | 高学年                           |         |
|---------------------|-------------------------------|---------|-------------------------------|---------|-------------------------------|---------|
|                     | 上位群                           | 下位群     | 上位群                           | 下位群     | 上位群                           | 下位群     |
| 上位群                 | 64 81.0                       | 59 57.8 | 64 78.0                       | 42 48.3 | 50 54.3                       | 22 23.9 |
| 下位群                 | 15 19.0                       | 43 42.2 | 18 22.0                       | 45 51.7 | 42 45.7                       | 70 76.1 |
| $\chi^2$ テスト        | $\chi^2=10.975 \quad p<0.001$ |         | $\chi^2=16.004 \quad p<0.001$ |         | $\chi^2=17.889 \quad p<0.001$ |         |

表7. 「体力」と「統制感」との関係 (実数と%)

| 体力<br>統制感    | 低学年                              |         | 中学年                         |         | 高学年                           |         |
|--------------|----------------------------------|---------|-----------------------------|---------|-------------------------------|---------|
|              | 上位群                              | 下位群     | 上位群                         | 下位群     | 上位群                           | 下位群     |
| 上位群          | 55 69.6                          | 65 63.7 | 72 87.8                     | 60 69.0 | 62 67.4                       | 33 35.9 |
| 下位群          | 24 30.4                          | 37 36.3 | 10 12.2                     | 27 31.0 | 30 32.6                       | 59 64.1 |
| $\chi^2$ テスト | $\chi^2=0.692 \quad \text{n.s.}$ |         | $\chi^2=8.761 \quad p<0.01$ |         | $\chi^2=18.302 \quad p<0.001$ |         |

表 8. 「体力」と「受容感」との関係

(実数と%)

| 体力<br>受容感    | 低学年                     |         | 中学年                       |         | 高学年                       |         |
|--------------|-------------------------|---------|---------------------------|---------|---------------------------|---------|
|              | 上位群                     | 下位群     | 上位群                       | 下位群     | 上位群                       | 下位群     |
| 上位群          | 54 68.4                 | 51 50.0 | 69 84.1                   | 48 55.2 | 67 72.8                   | 40 43.5 |
| 下位群          | 25 31.6                 | 51 50.0 | 13 15.9                   | 39 44.8 | 25 27.2                   | 52 56.5 |
| $\chi^2$ テスト | $\chi^2=6.157$ $p<0.05$ |         | $\chi^2=16.636$ $p<0.001$ |         | $\chi^2=16.281$ $p<0.001$ |         |

ないということである。低学年の段階における体力（運動能力）のレベルアップの適時性が示唆されて興味深い。

### 7. 「体力」と「受容感」との関係

表 8 は「新体力テスト」と「受容感」のカテゴリーの結果をクロス集計したものであって、低・中・高学年別および上・下位群別に示したものである。

表 8 にみるとおり、いずれの学年においても「体力上位群」に属するものは「受容感上位群」に属するものが多いことがわかる。このことは体力水準が高いものの方が運動・スポーツ場面で先生や友人からの励ましや誘いを受けていると認知するものが多いことを示すものである。とくにこうした傾向が低学年から現れ始め、中学年以降では顕著になる点に注目しなければならない。

### 要約と結語

児童 534 名を対象に新体力テストと運動有能感テストの結果を分析したところ、大要次のような知見を得たので報告する。

1. 新体力テストの総合評価により、A・B 段階の群を体力上位群とし、C・D・E 段階の群を体力下位群とした場合、低・中・高学年のいずれの学年においても体力上位群と体力下位群の比率はおよそ半数であった。

2. 運動有能感は高学年で低下傾向を示した。

3. 運動有能感が高学年で低下することには、統制感、身体的有能さの認知、受容感の順に大きく関与しているものとみられる。

4. 体力の水準と運動有能感の水準との間に

は正の相関関係のあることが示唆された。この傾向は低学年から認められ、中学年以降ではいっそう明白になる。

5. 体力の水準と身体的有能さの認知の形成には密接な関係のあることが明らかになった。この傾向は低・中・高学年のいずれの学年においても明白に認められる。

6. 体力の水準は中学年以降の統制感の形成と関係があることが明らかになった。この傾向は学年が上がるにしたがっていっそう強化されるものとみてよい。このようななかで、低学年の段階では体力水準の高低が統制感の形成にまだ影響を及ぼしていない点が注目される。

7. 体力の水準は受容感の形成と関係があることが示唆された。この傾向は低学年から現れ始め、中・高学年ではいっそう明白になる。

以上の知見はさらに次のようにまとめることができる。すなわち、児童期の体力のレベルアップは運動有能感の形成にプラスに機能するものとみられる。こうした体力と運動有能感との関係性は低学年の頃から現れはじめ、中学年の段階ではほぼ固定化されるとみてよい。しかし、低学年の段階では実際の体力水準の高低が統制感の形成に影響を及ぼすまでには至っていないものとみられる。したがって、低学年児童を対象とした体力（運動能力）向上のための方法論についての具体的な検討が必要と考える。その際「運動遊び」に関係する「時空間論」を検討することがその糸口になると思われる。このことについては稿を改めて論じてみたい。

### 注

1) K 小学校は「体力・運動能力の向上を図るため

- の指導の在り方」について、盛岡市教育委員会から研究指定を受けた小学校である。研究は平成15年度から開始されており、平成17年度には学校公開が予定されている。本調査研究の目的に沿って性別・6学年別等のより詳細な分析を行うためにはサンプル数は2,000を越えることが妥当と考えられるが、前述の「研究指定校」であることを考慮して、今回は事例的にK小学校児童のみのデータを分析した結果について報告することにする。
- 2) 「運動有能感」、および「身体的有能さの認知」「統制感」「受容感」の各カテゴリーにおける低学年と中・高学年の得点の平均値は次のとおりである。  
「運動有能感」：低学年=38.3 中・高学年=43.7  
「身体的有能さの認知」：低学年=12.9 中・高学年=12.6  
「統制感」：低学年=13.5 中・高学年=16.0  
「受容感」：低学年=11.9 中・高学年=15.1  
なお、上記のそれぞれの「上位群」と「下位群」の群別に用いた基準は、少数点以下を4捨5入した数値とした。
- 3) 今回の調査対象校のK小学校と文部科学省が示す平成15年度調査の総合評価の得点の平均値を低・中・高学年別に示すと下記のとおりである。いずれの学年においてもK小学校の調査結果の方が文部科学省のそれを上回っていることがわかる。  
K小学校=低学年：35.8 中学年：49.0 高学年：58.6  
文部科学省=低学年：33.0 中学年：45.9 高学年：57.5
- 4) 武田正司・田中鎮雄・柁沢聖子・綿田育代：「高校生にみる社会化過程と課外クラブの選好」, レクリエーション研究第17号, 1987, pp. 1-11.
- 5) 武田正司：「子どもの運動行動とスポーツへの社会化」, 盛岡大学児童教育学会研究集録第13号, 2000, pp. 19-32.
- 6) 前出1) p. 2.
- 7) 岡澤祥訓：「有能感を高める授業づくり 連載を終わるにあたって」, 体育科教育 48(4), 2000, p. 54.
- 8) 岡澤祥訓・北真佐美・諏訪祐一郎：「運動有能感の構造とその発達及び性差に関する研究」, スポーツ教育学研究 16(2), 1996, pp. 145-155.
- 9) 岡澤祥訓・木谷博記・木谷真佐美：「小学校低学年用運動有能感測定尺度の作成」, 奈良教育大学紀要第50巻第1号(人文・社会), 2001, pp. 91-94.
- 10) 岡澤祥訓：「子どもの有能感の変化をみる」, 『体育授業を観察評価する授業改善のためのオーセンティック・アセスメント』, 明和出版, 2003, pp. 27-28.
- 11) 岡澤祥訓・諏訪祐一郎：「『運動の楽しさ』と『運動有能感』との関係」, 体育科教育 46(12), 1998, pp. 44-46.
- 12) 岡澤祥訓・仲田幸代：「運動嫌いと運動有能感との関係」, 体育科教育 46(13), 1998, pp. 42-44.
- 13) 岡澤祥訓：「運動好きと自己有能感」, 体育の科学 53(12), 2003, pp. 905-909.
- 14) 読売新聞, 2004年11月9日(火)朝刊
- 15) 同上
- 16) 文部省：『新体力テスト』, ぎょうせい, 2000, p. 68.
- 17) 岡澤祥訓：「身体的有能感と運動種目の達成との関係—小学校児童を対象にして—」, Proceedings of 2nd Tukuba International Workshop on Sport Education, pp. 67-73.

## 文 献

- 1) 文部省：『小学校学習指導要領解説体育編』, 東山書房, 1999, p. 5.
- 2) K. マイネル：『スポーツ運動学』, 大修館書店, 1981, pp. 328-336.
- 3) 斎藤耕二：『社会化の心理学ハンドブック』, 川島書店, 1995, p. 19.

謝辞：本調査研究に関して、データ提供に協力いただいた盛岡市立北厨川小学校の先生・児童の皆さんとデータ処理に協力いただいた本学4年生境澤真梨さんに記して感謝の意を表します。

児童における体力と運動有能感との関係

別表 1. 低学年用運動有能感テスト

このプリントはうんどう（たいいく）についてみなさんにきいています。  
これからよみますので、あてはまるばんごうに○をつけてください。

| ねん | くみ   | ばん | おとこ・おんな | なまえ | そう<br>おも<br>う | すこ<br>し<br>おも<br>う | ど<br>ち<br>ら<br>だ<br>も<br>な<br>い | あ<br>ま<br>り<br>お<br>も<br>わ<br>な<br>い | ぜ<br>ん<br>ぜ<br>ん<br>お<br>も<br>わ<br>な<br>い |
|----|--|----|---------|-----|---------------|--------------------|---------------------------------|--------------------------------------|---|
| 1. | ほとんどのうんどう（たいいく）は、じょうずにできます。                      | 5  | 4       | 3   | 2             | 1                  |                                 |                                      |   |
| 2. | すこしむずかしいうんどう（たいいく）でも、がんばればできるとおもいます。             | 5  | 4       | 3   | 2             | 1                  |                                 |                                      |   |
| 3. | たいいくのじかん、いっしょにしようときそってくれるともだちがいます。               | 5  | 4       | 3   | 2             | 1                  |                                 |                                      |   |
| 4. | がんばれば、ほとんどのうんどう（たいいく）はじょうずにできるとおもいます。            | 5  | 4       | 3   | 2             | 1                  |                                 |                                      |   |
| 5. | うんどう（たいいく）がよくできるとおもいます。                          | 5  | 4       | 3   | 2             | 1                  |                                 |                                      |   |
| 6. | たいいくをしているとき、ともだちががんばれとおうえんしてくれます。                | 5  | 4       | 3   | 2             | 1                  |                                 |                                      |   |
| 7. | たいいくをしているとき、せんせいががんばれとおうえんしてくれます。                | 5  | 4       | 3   | 2             | 1                  |                                 |                                      |   |
| 8. | できないうんどう（たいいく）でも、あきらめないでれんしゅうすれば、できるようになるとおもいます。 | 5  | 4       | 3   | 2             | 1                  |                                 |                                      |   |
| 9. | うんどう（たいいく）がとくいなほうです。                             | 5  | 4       | 3   | 2             | 1                  |                                 |                                      |   |

(注) 「身体的有能さの認知」: 項目 1・5・9 の合計得点  
「統制感」: 項目 2・4・8 の合計得点  
「受容感」: 項目 3・6・7 の合計得点

別表 2. 中・高学年用運動有能感テスト

( ) 年 ( ) 組 ( ) 番 男・女 氏名 ( )

この調査用紙は、運動についての文章をあげてあります。それぞれの質問について  
自分に当てはまると思う番号を○で囲んでください。

|  | よく<br>あて<br>は<br>ま<br>る | やや<br>あて<br>は<br>ま<br>る | ど<br>ち<br>ら<br>と<br>も<br>い<br>え<br>な<br>い | あ<br>ま<br>り<br>あ<br>て<br>は<br>ま<br>ら<br>な<br>い | ま<br>つ<br>た<br>く<br>あ<br>て<br>は<br>ま<br>ら<br>な<br>い |
|--|-------------------------|-------------------------|---|--|---|
| 1. 運動能力がすぐれていると思います .....                  | 5                       | 4                       | 3   | 2  | 1   |
| 2. たいていの運動はじょうずにできます .....                 | 5                       | 4                       | 3   | 2  | 1   |
| 3. 練習をすれば、かならず技術はのびると思います .....            | 5                       | 4                       | 3   | 2  | 1   |
| 4. 努力さえすれば、たいていの運動はじょうずにできると思います .....     | 5                       | 4                       | 3   | 2  | 1   |
| 5. 運動をしているとき、先生が励ましてくれたり応援してくれます .....     | 5                       | 4                       | 3   | 2  | 1   |
| 6. 運動をしているとき、友だちが励ましてくれたり応援してくれます .....    | 5                       | 4                       | 3   | 2  | 1   |
| 7. いっしょに運動しようと誘ってくれる友だちがいます .....          | 5                       | 4                       | 3   | 2  | 1   |
| 8. 運動のじょうずな見本として、よく選ばれます .....             | 5                       | 4                       | 3   | 2  | 1   |
| 9. いっしょに運動する友だちがいます .....                  | 5                       | 4                       | 3   | 2  | 1   |
| 10. 運動について自信をもっているほうです .....               | 5                       | 4                       | 3   | 2  | 1   |
| 11. 少しむずかしい運動でも、努力すればできると思います .....        | 5                       | 4                       | 3   | 2  | 1   |
| 12. できない運動でも、あきらめないで練習すればできるようになるとおもいます... | 5                       | 4                       | 3   | 2  | 1   |

(注) 「身体的有能さの認知」: 項目 1・2・8・10 の合計得点  
「統制感」: 項目 3・4・11・12 の合計得点  
「受容感」: 項目 5・6・7・9 の合計得点